



青少年赤十字だより 第33号

JRCとやま

今こそ「気づき・考え・実行する」
私たちにできることは



富山県青少年赤十字指導者協議会

会長 鳥内 禎久

(高岡市立野村小学校長)

令和四年度創設百周年を迎えた青少年赤十字は、今年度、新たな百年の第一歩を歩み出しました。これまで猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症が五類へと移行し、三年余りに及んだ感染症との戦いに一つの節目を迎え、少しずつ元の生活に戻ろうとしていました。

そんな中、青少年赤十字の大きな活動の一つである、リーダーシップ・トレーニング・センターが四年ぶりに一泊二日で開催されました。「フィールドワーク」や「ポスターづくり」「ホームルーム」等の活動を通して、子供たちは、「気づき」「考え」「実行する」という青少年赤十字の態度目標を理解してくれました。参加したAさんは、「ポスターづくりを通して、いじめや

暴力が少なくなる社会をつくっていくために、学校でも困っている人を見かけたら助けたいと思います」と述べてくれました。

ウィズコロナからアフターコロナに移行している矢先、令和六年の元日に起きた能登半島地震は、石川県はもとより、富山県にも大きな被害を及ぼしました。本校にも三百五十人以上の方々が一時避難してきました。本校の校区でも、子供たちが調べただけでも道路沿いのブロック壁崩壊や地面の隆起等が、九十件以上見受けられました。新年を迎えた喜びもつかの間、今まで経験したことのない未曾有の震災に、大きく動揺し胸が締め付けられる思いになりました。

本校の児童会は、能登半島地震で大

きな被害を受けた状況を鑑み、「今私たちにできること」は何かを考えました。自分たちには大きな被害がなく、普通に生活ができることに感謝し、少しでもその幸せを共有したいという思いから、児童会のボランティア委員会が中心となって、被災した方々への緊急募金活動を行うことになりました。その結果、三日間で総額十四万七千九百九十三円が集まりました。集まった義援金は、「日本赤十字社」や「高岡市社会福祉協議会」、普段本校が交流している「特別養護老人ホーム」に届けました。

実は、この緊急募金活動を教職員や児童に訴えたのは、昨年度のリーダーシップ・トレーニング・センターに参加したAさんだったのです。Aさんは、昨年度のリーダーシップ・トレーニング・センターで学んだ「赤十字と人道」人道の四つの敵」の内容を鮮明に覚えていました。リーダーシップ・トレーニング・センターの成果を、学校のリーダーとして気づき・考え・実行してくれたことを大変うれしく感じました。

終わりにりましたが、本年度、私たちの青少年赤十字活動に対し、多大なご指導とご支援を賜りました富山県教育委員会、青少年赤十字賛助奉仕団をはじめ、関係各位に心よりお礼申し上げますとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

青少年赤十字防災教育のご紹介

1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、震度5を超える大きな揺れに富山県も見舞われ、直ちに発令された津波警報には、1次避難所に指定されている各学校でも、その対応に追われたことと思います。

地震発生は必須とされる日本ですが、大地震への備えは、経験した後にしか実感として持てない、と感じた人も多かったかもしれません。

日本赤十字社では、東日本大震災以降、JRC教材『まもるいのち、ひろめるぼうさい』（通称まもひろ）の発行・普及や赤十字防災セミナーの開催など、地域防災の啓発普及に努めています。ここでは、学校向けの新カリキュラムをご紹介します。

赤十字防災セミナー

日本赤十字社は、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることで、地域の住民の方々が自ら、災害から命を守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指し、現在、5つのカリキュラムを用意しています。

・災害への備え

災害・防災についての考え方や、災害時の役割、防災への取り組みを学びます。

・災害エスノグラフィ

大規模災害の被災者の経験談を通じて災害を追体験することで、被災の具体的なイメージを理解します。



・災害図上訓練（DIG）

地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげます。

・家具安全対策ゲーム（KAG）

おうちのキケン（小学5・6年生）

地震で起こる被害をどのように減らすか、自宅（部屋）の平面図を描くことにより、危険な場所を把握し、自らが家具の安全対策の必要性を理解します。

・ひなんじょたいけん

避難所を運営するカードゲームを通じて、大地震における避難所生活の一部を体験し、「避難者の目線で心がける要点」を理解します。

このうち学校で取り入れやすいものとしては、児童・生徒向けでは「家具安全対策ゲーム（おうちのキケン）」、教員・保護者向けですと「ひなんじょたいけん」です。

今回は、この2つについて紹介します。

おうちのキケン

時間 40～50分

準備品

・筆記用具・個人ワークシート（A4）
・パソコン・プロジェクター・スクリーン

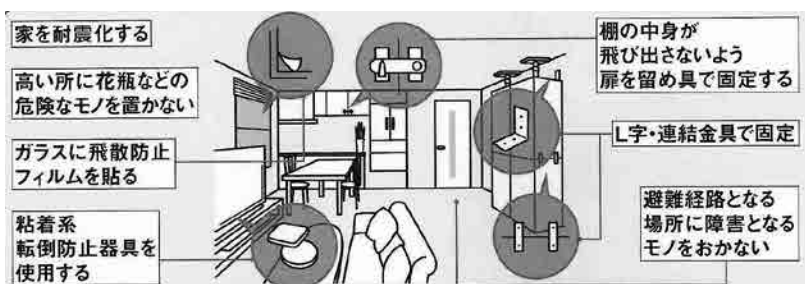
配付物

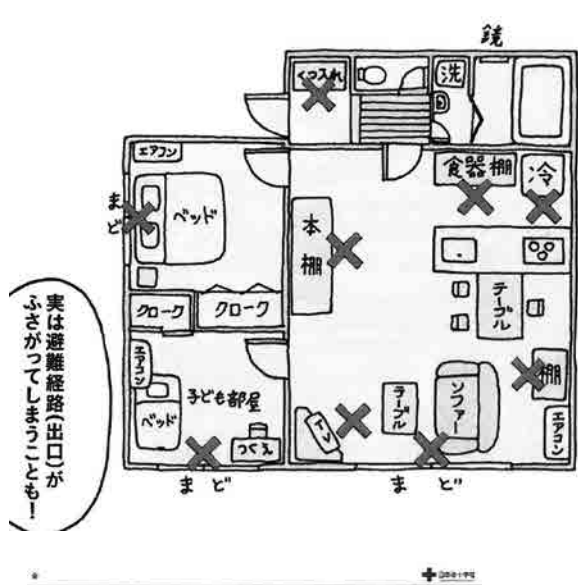
・災害に備えて おうちの中の安全対策のススメ（7頁まんが）

○地震で起こる被害の中で、家具の安全対策が重要なこと意識します。

○過去の大地震での屋内の様子を基に、家具の安全対策がなければ、迅速な避難など、命を守る行動につながらないことを理解します。

○倒れてキケン、落ちてキケン、割れてキケン、飛んでキケン、の4つの対策から、安全なスペースの確保につながることを理解します。





家全体のキケンが見えてきます!

○家具の安全対策にかかる作業だけでなく、家族と地震への備えを話し合うことにつながります。

○安全なスペースの確保を学び、すぐにできること、お金や時間がかかることを分けて考えることも大切であることを意識します。

○備蓄の準備・見直しを意識することで、備えることはもちろん、平時に使ってみることなどの気づきにつながります。

○個人ワーク(平面図の作成)により、安全対策の確認や在宅避難に備えること、ペアワーク等で安全対策に関する共通理解を深めます。

避難所はどんなところ?



○次々に来る避難者世帯には、それぞれの事情があり、中には配慮が必要になる方もいます。その中で、避難所の環境を考えたり、ルールを分

○大地震における避難所生活の一部をイメージした、避難所を作るカードゲームを通して、避難所運営者ではない「避難者の目線で心がける事柄」のように、避難所での「自助」、「共助」の力の向上を支援することを目的としています。

準備品
・筆記用具(参加者)・マジック3本・コピー用紙(A3・2枚、A4・5枚)(グループごと)
・パソコン・プロジェクター・スクリーン
・ゲームのセットは日赤が準備
・1グループ5〜7人

ひなんじょたいけん
時間 90〜100分

ゲームの進行



※開催は日赤にご相談ください。

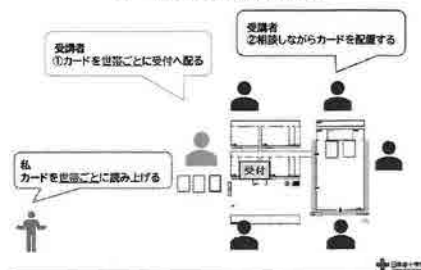
おうちではなそう
赤十字防災セミナーのカリキュラムは、いずれも各家庭に帰って、おうちのひと話することで、各家庭の自助(備え)と共助(地域連携)につながるのですが、大きな目的です。



○大勢での避難所生活では、他者への寛容さやルールを守ることの大切さ、普段から地域の人たちと顔見知りであることなど、平時から心がけておくことが重要であることがわかります。

かりやすく掲示・伝達したりすることをグループで考えることで、新たな気づきが生まれます。

ゲームの具体的な手順



避難者カード

西區9-1 しめさばさん 男性/50歳 ・世帯主、妻、長男	西區9-1 しめさばさん 女性/52歳 ・世帯主、妻、長男	西區9-1 しめさばさん 男性/15歳 ・世帯主、妻、長男
--	--	--

カード1枚=避難者一人のスペース
大切に扱ってください

青少年赤十字

研究会に参加して

〈令和6年1月12日金〉に「令和5年度青少年赤十字研究会」が日赤本社にて開催されました。



東部教育事務所
主任指導主事 古川 順子

1月1日に発生した令和6年能登半島地震で日本赤十字社は、地震直後から現地入りし支援していることや近年の活動状況を聴き、その様子に胸が熱くなると同時に感謝の思いがあふれました。

青少年赤十字が掲げる「人道」は、学校教育での「自分の力を社会のために役立てること」と重なります。さらに、青少年赤十字の目標である「気づき・考え・実行する」は、学習指導要領にある「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。また、授業での学習過程や特別活動で育てたい自己指導能力の育成の視点とも結びついており、ぜひ、青少年赤十字の活動を生かしながら学校で身に付けたい力を育成していきたいと感じました。また、JRCが進める防災教育は、プログラムも充実しており、学校現場ですぐに活用でき、JRCの職員が講師となり、実際に子供たちに指導してもらうことで、より実践を伴った防災教育ができるように感じました。

私は、やさしさや思いやりの心を引き出し、主体的に行動できる子供の育成を目指す青少年赤十字の活動を学び、「生きる力」を育む学校現場との橋渡しを積極的に行っていくことが、指導主事としての役割であると強く感じました。

リーダーシップ・トレーニング・センター

指導者養成講習会に参加して

〈令和5年5月26日金〉〜28日(日)に、「令和5年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会」が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催され、富山県から2名の指導者が参加しました。



射水市立射北中学校
教諭 宮崎 由衣

本講習会を通して、全国から集まった参加者の方と交流するという貴重な経験をさせていただきました。講習会のプログラムは、座学だけでなく、グループでの活動もあり、多くの方と話をしたり、ともに体験したりする中で、人との繋がりが広がる嬉しさを感じました。

中でも、特に印象に残った活動は、冊子「まもるいのち、ひろめるぼうさい」に掲載されている防災教育のプログラムを体験したことです。グループで制限時間内に竹ひごと粘土、マスキングテープを使って、どれだけ高いタワーをつくることができるかに挑戦したり、災害時に何を靴に入れて持つて行くか話し合ったりするなど、自然にコミュニケーションをとりながら防災について学ぶことができました。活動後には、指導者の方から学校での活用ポイントや、グループでのよりよいコミュニケーションの取り方についての講評があり、自分も学校で活用したいと感じました。

今回の講習会を通して、トレーニング・センターの活動は、子供の「気づき、考え、実行する」力を育て、他者によりよく関わり、過ごしやすい

社会をつくることに繋がっていると感じました。今回の学びを活用し、「気づき、考え、実行する」生徒を育てられるよう努めていきたいです。



荒井学園新川高等学校
養護教諭 金田 千華

指導者養成講習会に参加してきました。各県のJRC加盟校の先生方が集まり、校種を問わず交流がもてました。私が所属した6HRはシエルパ先生を指導者として10名の高校の先生方が集まりました。各校の置かれていた現状や危機感を感じながら行っている日々の業務や立場の違い、経験年数の違いもある中、様々な情報を交換し交流することができました。最後には、連絡先も交換し、近況報告を約束してお別れとなりました。講習会の内容は、講義形式、ワークショップ、活動事例報告など様々なものがあり、どれも学校に帰ってから実践できそうな内容であり刺激を受けました。また、実際に被災された学校の先生の話、生徒たちの活動を知ることができ、防災教育の大切さを実感しました。フィールドワークでは、久しぶりに生徒の立場に立つて活動をして、不安な気持ち、ハラハラする気持ち、できた時の達成感、チームワークの大切さなどを思い出すことができました。ワークショップの発表では、6HRの先生方が学校だけでなく、地域に目を向けた活動を考え実践していることに驚くとともに広い視野を持つことの大切さを実感しました。自身のJRC活動の経験年数が足りないこともあり、様々な知識を学べるいい機会となりました。この3日間の経験を学校での活動、県支部での活動に活かしていきたいと思います。

リーダーシップ・ トレーニング・センター

県内の青少年赤十字加盟校より小・中・高等学校別に参加者を募り、青少年赤十字のリーダー養成を目的として、毎年夏休みに開催しています。今年度は、8月2日(水)～3日(木)に、4年ぶりに宿泊型で富山県砺波青少年自然の家にて開催し、県内の小・中・高校生98名が参加しました。救急法やフィールドワーク、手話、ワークショップなどの様々なプログラムに取り組み、新しく出会った仲間とともにリーダーシップを学びました。



リーダーシップ・ トレーニング・センター ワークショップ集より

〈小学校〉

手話のプログラムで、耳が聞こえないとどのような不便なことがあるのかについて知りました。テレビの音が聞こえなかったり、駅のアナウンスが聞こえなかったりして、とても大変なんだなと思いました。手話を習い、名前を指文字で表現しましたが、覚えるのに時間がかかり大変でした。あいさつなどは、生活の中で使ってみたいなと思いました。手話を学んで、耳に障害がある人の大変さを知ることができました。

今回のトレセンで、前の自分よりも積極的に発表をしたり、司会をすることができるようになりました。また、自分とは違う意見に触れることができ、すごく楽しかったです。これからは、自分の意見を大切にしながらも、他の意見も取り入れて、みんなにとってより良いものをつくっていきたいです。

私はトレセンで「気づき」「考え」「実行する」ことの大切さを知りました。今までは、気づいても行動に移せなかったけれど、実際に動いてみると皆がよりよく生活できるようになったので、学校でも積極的に行動していきたいです。

また、救急法だけがをした人がいた時の対処の仕方が分かったので、学校内で実践できたらいいなと思いました。



〈中学校〉

今回のトレセンでは、3つのことを学ぶことができました。

1つ目は、とにかくアイデアを口に出してみるこの大切さについてです。活動では、人道に関するポスター作りがありました。そこで、ホームの仲間が込めた思いなどを聞きました。しかし、全員が考えるポスターのイメージはばらばらで非常に作るのが難しかったです。けれども、仲間の案から思ったことを「もっとこのようにしたら良いんじゃない?」ととにかく口に出してみると皆の考えもどんどん深まってきてよいポスターを作ることができました。

2つ目は、先のことを見通すことの大切さについてです。僕はこの2日間のトレセンの中で、早

めにその先の活動予定や時間を確認していました。すると、「活動前に荷物を研修室に持っていかなければならないから、今のうちに整理しておこう」というように、やるべきことが明確になって余裕を持って行動することができました。

3つ目は、仲間と協力することの大切さについてです。2日目のフィールドワークでの目隠しをして道を進んでいく箇所では、仲間が何度も「溝があるよ」「段差があるから気をつけて」などの声をかけてくれました。すると、安心して安全



に歩くことができました。目隠しの状態で歩くことは非常に怖いし心細いけれども、仲間の声かけがすごく自分の励みになったし、もし仲間がいなかったら何度もつまづいていると思ったので、改めて協力することの大切さを実感しました。

2日間のトレセンはあっという間でしたが、その中で非常に多くのことを学ぶことができました。学んだことは、これからの学校生活、暮らしに役立つ価値あるものだと思うので、忘れず、これら

今回のトレセンは、2回目の参加になりましたが、1泊2日は初めてで、どんな活動をするんだろうと期待と不安が混ざったような気持ちでした。私の学校ではJRC活動が盛んに行われており、普段から親しみのあるように感じるJRCという言葉についてより詳しく、また歴史なども知ることができ、他の人にも知ってもらいたい、広めたいと感じました。また、私は昨年「人道」という言葉を知ってから、この言葉を大切にしてきました。大切にしているといっても、それができているか、それを忘れたときがないのか、そう聞かれるとそうではありません。でも、その言葉は誰かにとっての心の変化のかぎになってくれれば良いと、この学習を通してより思うようになりました。

心肺蘇生やAEDの使い方、手話では、もしもこんな場面に出会ったら、もしも音の聞こえない人に出会ったら、そんなときにどうしたらいいのか教えていただき、初めて知ることができた技術や知識が増えました。

グループワークのポスターづくりでは、意見をまとめ分担し協力することの大切さを改めて知ることができました。考



え方も思っていることも違う人が一つのポスターを作るのはとても難しいことだと思いましたが、うまく意見を合わせることですごく満足のいくものが作れたのではないかと思います。さらに、ホームの人との仲も深まったように思えて、とても楽しいと思える時間でした。



いろんな学校の人の違ったリーダーシップを見られたのも、とてもいい経験になったと思います。はじめはリーダーと呼ばれるような人が集まれば少しはぶつかり合うのではないかと不安に思っていました。この2日間は決して完璧ではなく思った通りにいかないこともたくさんありましたが、全員がJRC精神のもと活動したため楽しく充実した2日間にすることができました。考

令和5年度

青少年赤十字活動実践校の取組みについて

「青少年赤十字活動実践校」制度は、加盟校における青少年赤十字活動の一層の充実化と、未加盟校の啓発を図ることを目的として、令和3年度より制度を改めました。年に10校程度を単年度で指定し、各校既存の学校行事や教育活動も含めてJRCの実践目標（健康・安全、奉仕、国際理解・親善）や態度目標（気づき・考え・実行する）などに沿った活動を幅広く実践していただくこととしています。

令和5年度は、小学校4校、中学校4校、高等学校1校を指定し、各校特色ある日常活動、総合的な学習、地域活動、防災、ボランティアなどに取り組み、報告いただきました。指定校の詳細な活動につきましては、各学校に送付している青少年赤十字活動実践校実践報告集をご覧ください。

〈令和5年度青少年赤十字活動実践校〉

○朝日町立朝日中学校

・活動主題

「生徒会によるボランティア活動の計画と実践」
「地域との連携を大切にした生徒会活動の充実」

○富山市立興南中学校

・活動主題

「率先して諸活動に取り組もうとする生徒の育成」

○氷見市立北部中学校

・活動主題

「多様性や互いの個性を認め合い豊かな社会性を持つ生徒の育成」



さわやか挨拶運動の様子(中学校)



ペットボトルキャップ回収の様子(小学校)



栽培活動で花壇に花苗を植える様子(小学校)



NHK 海外たすけあい募金活動の様子(高等学校)

○小矢部市立大谷中学校

・活動主題

「人との関わりの中で思いやりの心をもち、主体的に奉仕活動に取り組もうとする生徒を育てる」

○滑川市立東部小学校

・活動主題

「異学年の仲間や家族、先生、地域との協働による奉仕活動や交流を通じた豊かな心の育成」

○富山市立中央小学校

・活動主題

「青少年赤十字活動実践校、ユネスコスクールとして、地球規模でESD―SDGsを実践していくという態度を育成する」

○射水市立作道小学校

・活動主題

「思いやりの心をもち、進んで行動（ボランティア）できる子どもを育てるために」

○高岡市立成美小学校

・活動主題

「二人一人のボランティアの心を育てるために」

○荒井学園新川高等学校

・活動主題「気づき・考え・実行する」

令和6年度活動実践校予定地区

小学校 4校（富山1、中新川1、射水1、氷見1）
中学校 4校（魚津1、富山1、高岡1、砺波1）
高校・幼・保・特支 1校
計 9校

令和6年度JRC活動計画

3月	1月	8月	7月	6月	5月
<p>高校生対象 スタディー・センター（山梨県） 高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を図ります。</p>	<p>指導主事対象 青少年赤十字研究会（日赤本社） 青少年赤十字活動研究会（富山市） 教職員を対象に、広く青少年赤十字活動を学び、普及することを目的とした研究会です。</p>	<p>リーダーシップ・トレーニング・センター（砺波市） 県下小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーが集まり、共同で生活する体験学習です。チャイムや指示がないため、自分で考えて行動することによって、参加者の自主性を育てます。</p>	<p>全国指導者協議会総会（日赤本社） 全国賛助奉仕団協議会（日赤本社）</p>	<p>第3ブロック指導者協議会長及び支部担当者研究会（岐阜県）</p>	<p>指導者協議会 理事会・総会（日赤県支部） 令和6年度 活動実践校指定 トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）</p>

青少年赤十字への
加盟について

青少年赤十字は、学校教育の場に組織され、教員が指導者となつて、児童・生徒とともに活動に取り組みます。

青少年赤十字に加盟されると、定期刊行物や資料・教材の無償提供、指導者対象の講習会に関する案内、小・中・高等学校の青少年赤十字メンバー対象のリーダーシップ・トレーニング・センターに関する案内等がありますが、「これをしなければならぬ」といった義務のようなものではありません。地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献するような活動を、学校の裁量で自由に行うことができます。なお、加盟登録する上で、経費は一切かかりません。

各学校教育効果を高めるため、ぜひ青少年赤十字をご活用ください。



発行・編集

富山県青少年赤十字
指導者協議会
日本赤十字社富山県支部

〒930-0821 富山市飯野26-1
TEL076-451-7878 FAX076-451-6872
<https://www.jrc.or.jp/chapter/toyama>

青少年赤十字加盟校状況（令和6年3月31日現在）

校 種	校数	メンバー数
幼稚園・保育園	13園	1,151名
小 学 校	139校	26,167名
中 学 校	74校	22,611名
義務教育学校	3校	410名
高等 学 校	15校	2,023名
特別支援学校	5校	202名
計	249校	52,564名